

注意報

奈 病 防 第 2 号
平成30年8月27日

関係機関長 殿
病虫害防除員 殿
調査員・情報員 殿
農業資材販売等関係者 殿

奈良県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報の送付について

このことについて、以下の通り発表しました。適正・安全な防除について御指導をお願いします。

平成30年度病虫害発生予察注意報第2号

病虫害名 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ・ツヤアオカメムシ)
作物名 カキ・ナシ・ブドウ・ミカン

1. 発生地域 県下全域
2. 発生時期 8月下旬～10月中旬
3. 発生程度 多い

4. 注意報発表の根拠

- (1) 8月下旬に実施した巡回調査では、ヒノキにおけるチャバネアオカメムシ新世代の平均成虫数は平均2.1頭/樹と多く、寄生樹率(71%)も依然として高くなっています。また、予察水銀灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数は8月中旬以降も一部地点で多い状態が続いており、台風20号通過直後に誘殺数の急増が見られます。
- (2) 県内カキ38園地のカメムシ被害状況を調査したところ、平均被害果率は5.4%で約2割の園地で10%以上の果実被害が認められました。特に御所市および下市町で被害が目立っています。
- (3) ヒノキ球果の口針鞘数(カメムシの吸汁痕)は県内8地点の平均で15.9本/個と、前回調査時(7/24:3.6)から大きく増加しており、離脱時期が近いと考えられる地点もありました。(ヒノキからの離脱時期の目安は25本)

5. 防除上の注意事項

- (1) カメムシの飛来は地域差、園地間差が大きいいため、こまめに園地を見回り、新しい被害やカメムシを確認した場合は直ちに防除を行います。
- (2) 台風通過後には突発的な飛来がみられる場合がありますので、安全が確認された後園地を見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除します。
- (3) カキでは、早生品種の収穫中に「富有」の被害に遭う事例が目立ちます。多忙な時期ですが、園地の観察を欠かさず早期発見に努めます。
- (4) ナシでは、有袋栽培でも袋と果実の密着面から容易に吸汁が可能ですので、十分注意します。
- (5) 農薬使用前にはラベルをよく読み、記載された使用条件を遵守します。また、薬液が隣接する農作物に飛散しないように十分注意します。

表. カメムシ類の主な防除薬剤

	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ナシ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫3日前まで	2回以内	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
	アディオン乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	合成ピレスロイド剤
	アーデント水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
カキ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
	MR.ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	合成ピレスロイド剤
	キラップフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	フェニルピラゾール系
ブドウ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
カンキツ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫14日前まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アグロスリン水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
	MR.ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	合成ピレスロイド剤

注) 登録内容はH.30.8.8時点のものです。農業使用前にはラベルをよく読み、記載された使用条件を遵守して下さい。